

令和4年度学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校

※令和4年度より、コミュニティスクールに移行したことに合わせて、学校関係者評価を学校運営協議会で行うこととした。

第3回学校運営協議会（令和5年2月21日18:00～ 八田中学校会議室）

<学校運営協議会委員>

- 会長 石丸 洋一（学識経験者、元小中学校長）
- 副会長 穴水 健二（住民代表）
- 委員 大堀 俊介（住民代表）
- 浅野 茂（住民代表、休日部活動指導者、元教員）
- 小澤 昌史（住民代表）
- 清水 絵美子（住民代表）
- 清水 妙子（住民代表）
- 湯沢 信（住民代表）
- 貝瀬 修二（住民代表）
- 手塚 弘（保護者代表、R4年度小学校PTA会長）
- 安部 明奈（保護者代表、R4年度小学校PTA副会長）
- 有泉 宏紀（保護者代表、R4年度中学校PTA会長）
- 清水 けい（保護者代表、R4年度中学校PTA副会長）
- 神宮寺静徳（八田小学校後援会長）
- 井上 孝雄（八田地区学校応援団コーディネーター、元小学校長）
- 樋川 純一（市青少年育成会議八田支部長）
- 笹本 学（中学校長）

※生徒・保護者・教職員を対象に行ったアンケートを基に作成した「自己評価書」をベースとして、議論を行った。特に、家庭学習にかかわる課題について、意見が集中した。

I 意見（家庭学習にかかわる課題に対する意見）

- 家庭学習が減少している原因として、コロナ禍のもと臨時休校が行われ、家庭での学習（自律的な学習）が重要なウェイトを占める事態となったことが挙げられる。1人1台端末が導入され、オンラインによる授業やドリルアプリなども導入されたが、生徒の操作スキルや学習への意欲が十分ではない状態で移行したことが、家庭学習離れにつながったのではないか。
- 家庭での読書量が減少していることも心配である。読書を通して様々な言葉や表現を学ぶことが、豊かな表現力につながると考える。漫画の中にも心に残る言葉や名言はあるので、発達段階にもよるが、本に親しませ、読書を通して言葉を蓄える（インプット）の取り組みが必要。同時に、蓄えた言葉を表出する（お互いに感想を発表する）など、アウトプットの機会を設けることも大切にしてほしい。
- 質問文に「家庭学習（塾や家庭教師等は除く）」とあることが、家庭での学習の減少に影響しているのではないか。塾や家庭教師も学校での学習を補完する学習として、家庭学習に含めて良いと思う。同時に、宿題としての読書（例えば音読など）も除外する結果となり、読書率の低下につながっている可能性もある。家庭学習をどうとらえるか、定義が必要。
- 子どもたちは、自主学習を課せられても、自分の興味関心に沿った学習を進めるのではなく、手っ取り早く済ませられる（時間を要しない）課題を選ぶことが多い。本当は、その日学校で学んだことの復習を毎日やってほしい。昔、「自分の好きなことを家でやってきなさい。」という自主学習課題があった。絵をかいてくる子どもや本を読んできてくる子どもなど、それぞれの個性（興味関心）を伸ばす課題として、面白いと思った。
- 何のために学習をするか、という動機づけが不足しているのではないか。家庭学習においても、何のために計算練習や書き取りをするのかを考えずに「やりなさい」と伝えても、意欲につながらないのではないか。義務教育の目的として、「15の春に向けて志を立てる」ということが重要である。小中を通して、いろいろな価値観や職業等に触れ、世界観を広げることが、学びへのモチベーションにつながるのではないか。
- すべての子どもが学者になりたいわけではないので、計算や書き取りの宿題ばかりでもいけない。その人に合った家庭学習のやり方で個性をどう伸ばすかを考えてほしい。
- 学習で躓いた時に参考にできる（カリスマ講師の授業動画のような）サイトが市教委で準備できるとよい。
- 個で学ぶツールとして補助的に動画視聴を行うのは良いが、学校では対話的な学びとして、伝えること、聞くこと、議論することも重視している。（IT教育ではなく、ICT教育。）個の学びはインプットの機会、集団での学びはアウトプットの機会というように、それぞれ
の特性を生かした使い分けができるとよい。

2 まとめ（議論を通して見えてきた来年度への課題）

（1）学ぶことへの動機づけ【主体的に学ぶ生徒の育成】

何のために学ぶかということを様々な場面で考えさせたうえで、学習に取り組みさせることが、学ぶ意欲をつくるうえで重要となる。

→キャリア教育の重要性

中学校では地域と連携（地域コーディネータと連携）しつつ、職業体験を復活させ、生徒の価値観・世界観の拡充を図っていく。

→地域との連携（地域人材の活用）の重要性

（2）家庭学習の取組強化

小中で系統だった家庭学習方法・習慣の確立が必要である。

→小中連携の重要性

〈家庭学習の内容〉

以下の課題をミックスしながら、毎日家庭学習を行える体制を構築する。

- ・基礎・基本を定着させるための復習的な課題
- ・伝える力を伸ばすための読書活動（黙読・音読）等の課題
- ・学びを深化させるための発展的な課題
- ・個の特性（興味関心）を伸ばすための個別最適な課題

〈家庭学習の方法〉

発達段階に応じて、ツールを使いわけの必要がある。

（例）

- ・保護者の力を借りる学習（音読や答え合わせを伴う課題等）と、

自分でやる学習（黙読等）

→保護者との連携の重要性

- ・紙を利用した学習と端末を利用した学習

など。

（3）学んだ（インプットした）ことを表出する（アウトプットする）学習機会の創出

八田小中でめざす「伝える力」の育成をめざして、授業や家庭学習を通して身につけた知識や技能を生かして、発表したり議論したりする場面を授業の中に取り入れる必要がある。

→授業改善の重要性

（4）その他の課題として

- ・ICT化が進行していく学校現場において、若い先生（大学時代からICT機器を使いこなし、スキルを備えている人材）をどう活用するか。
- ・小中一貫校としてめざすもの、そのための特徴的な取り組みを地域や保護者にどのように周知していくか。